

(陳受令1第7号) 米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進する意見書提出を求める陳情	
受理年月日	令和元年5月27日
陳情者	宜野湾市民の安全な生活を守る会 会長 平安座唯雄
陳 情 の 要 旨	
<p>宜野湾市民は、米軍普天間飛行場の建設以来、74年間、普天間飛行場とともに生活してきた。宜野湾市民にとって重要なことは、何時までに普天間飛行場と付き合わないといけないかを明確にして、将来への展望を開きたいということである。</p> <p>しかし、普天間飛行場は米軍側への代替施設提供無くして閉鎖されることが日米政府で合意されている中、移設反対派は、普天間飛行場の危険性を除去する方案を持ち合わせてはいない。</p> <p>翁長雄志前知事が辺野古の埋め立て承認の取り消し訴訟を国に対して行った際、我々は強い危機感を持ち翁長前知事提訴への署名活動を宜野湾市で行った。その結果、9万人の宜野湾市民のうち2万人余りから署名をいただき、宜野湾市民の声を拾い上げることができた。</p> <p>また、県民有志で結成された「基地統合縮小実現県民の会」が辺野古移設と経済振興を求める署名活動を行ったところ、わずか3カ月で7万3491名の署名が集まったことから、県民全体が辺野古移設に反対しているわけではないことも強調しておきたい。</p> <p>宜野湾市のど真ん中にある普天間基地と、辺野古の海岸沿いにある誕生する基地のどちらが安全かは自明の理であり、基地の面積も3分の1に縮小されるのである。何よりも基地受け入れ先の名護市辺野古3地区(辺野古・豊原・久志)は、移設に条件付きで賛成しており、地元の振興策を国に依頼し振興策は開始されている。</p> <p>こうしたことから、普天間飛行場の危険性を除去する唯一の方法は辺野古移設しかない点と考えるが、これを後追しして頂きたく意見書提出をお願い申し上げる次第である。</p>	